

<業界レポート>

イラン尿素輸出再開の影響

(2021年7月2日作成)

イランは西アジア・中東に位置するイスラム共和制国家である。面積 1,648,195km²、中東では 2 番目、世界では 17 番目で、人口約 8,100 万人、世界 7 番目である。イランは豊富な石油資源を有し、すでに判明された原油埋蔵量 1,580 億バレル、天然ガス 1,201 兆立方フィート、それぞれ世界石油資源量の 9.4%と天然ガス資源量の 18%である。その石油資源をバックにイランの石油化学産業が発達し、石油化学製品の輸出量がイラン輸出量の 30%以上を占める。

イランは 20 世紀末までに尿素が自給できず、毎年 20~50 万トンを入力しなければならなかった。その状況を改善するため、イラン政府は 2000 年以降国を挙げて尿素産業の発展に力を入れた。2008 年から純輸出国に転じ、2018 年には 420 万トンの尿素も輸出した。イラン尿素産業の特徴は、原料天然ガスが自国産で、尿素生産設備もほとんど 2000 年以降新設された最新の技術を有するもので、生産効率が高く、コストが非常に安い。資料によれば、イラン尿素的生産コストが大体 100~120 ドル/トンで、中東諸国と並び世界一低いと言われる。従って、ただの 10 年間で、イラン尿素輸出量が 2008 年の 3,900 トンから 2018 年の 420 万トンに急増し、世界尿素貿易の黒馬となった。

しかし、アメリカのトランプ政権が 2018 年 8 月からイランに対する経済制裁を再開させてから、尿素を含む石油化学製品の輸出が厳しい局面に入った。2021 年 1 月アメリカはバイデン政権が立ち上がり、イランに対して一転温和の姿勢を示している。5 月、イランのハッサン・ロウハニ大統領は、石油、石油化学、銀行の規制を終わらせるための大まかな概要が米国や他の国々と合意されたと述べた。

ただし、6 月 18 日に実施されたイラン大統領選は、大方の予想通り、反米で保守強硬派のライシ司法府代表が得票率 62%、約 1790 万票を獲得して圧勝した。保守強硬派の政権奪還は 2 期 8 年ぶり、経済制裁の解除可能性が益々不明瞭となった。

本レポートはイランに対する経済制裁がイラン尿素的輸出に及ぼす影響及び経済制裁が解除する場合の世界尿素貿易に与える影響を紹介する。なお、イランの尿素産業については当研究所の「イランの尿素産業」レポートをご参考ください。

一、2018 年経済制裁の導入がイラン尿素的輸出に及ぼす影響

2018 年以前、すでに存在しているイランへの送金に関する銀行規制があり、イラン尿素的はラテンアメリカ、ヨーロッパ、東南アジアを含む多くの地域に大量に出荷することが出来ない。主な輸出先はインドとトルコ、特にインドに大きく依存する。当時はイラン中央

政府と地方政府の様々な輸出支援でインドの行った尿素国際入札に最も競争力のある価格で応札し、落札させた。

インド税関の統計データによると、2017年イラン尿素的のインドへの輸出量は171万トン、その年のイランの総輸出量の約50%を占める。2018年は第4四半期に制裁措置が始まったが、イランは依然としてインドに190万トン以上の尿素的を輸出した。

実際にイラン尿素的のインドへの直接輸出を効果的に阻止したのは、2018年10月5日のMMTC社の尿素国際入札であった。この尿素入札では、インド政府はMMTC社の入札文書に「商品のオープンな原産地での入札は受け入れられない」及び「制裁が課された/課される可能性のある原産国からの材料を提供する入札は受け入れられない」という新しい要件を提示して、「この要件を違反する場合は入札が無効とする」も明記されている。

その後、イラン尿素的の輸出が大きく阻害され、イラン税関のデータでは2019年1~8月、イラン尿素的輸出量130万トン、前年同期の190万トンより大幅に減少した。その後、イラン税関が尿素的の輸出データを公開せず、イラン政府もFAO（国連食糧農業機関）に統計データを一切提供しないことになった。信頼できるデータがないが、2020年のイラン尿素的輸出量が100万トンを下回ったという推測がある。

図1は2010~2020年イラン尿素的輸出量の変化を示す。

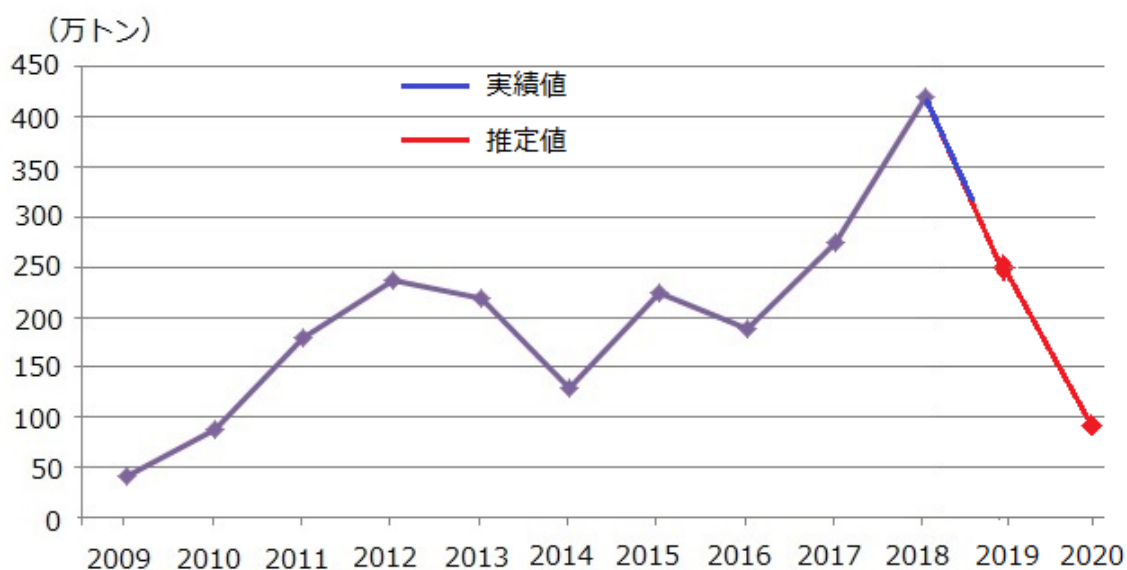


図1. 2009~2020年イラン尿素的輸出量の変化（2019~2020年は推定値）

（データ出所：実績値はイラン税関、推定値は著者）

イラン尿素的の輸出に対する制裁措置の導入により、2018年CFRインドとFOBアラブ湾の尿素的価格が7月の安値から10月初旬のピークまでそれぞれ60ドル、75ドルも上昇した（図2）。

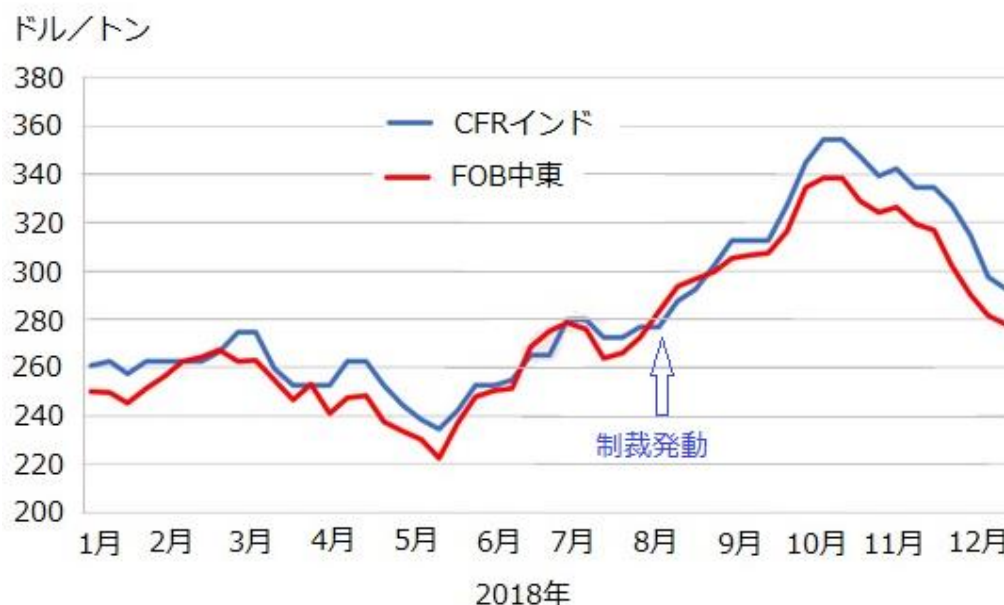


図 2. イランの経済制裁による 2018 年の CFR インドと FOB 中東尿素の値動き
(データ出所： Profercy Nitrogen)

二、経済制裁が再開後、イラン側の対応

経済制裁が再開してからイラン尿素がインドという最大の輸出先を失い、生産量と輸出量を縮小せざるを得なくなり、公式のデータでは 2019 年 1～8 月、イラン尿素輸出量 130 万トン、前年同期の 190 万トンより大幅に減少した。また、主な輸出先はインドではなく、トルコとトルクメニスタンであった。その後、イラン税関が尿素の輸出データを公開せず、イラン政府も FAO（国連食糧農業機関）に農業に関するデータを一切提供しないことになった。

ただし、イラン尿素メーカーと商社が迂回ルートの開拓に努力した結果、中国またはトルコとオマーンを経由することで一定の輸出量を確保していた。特にアメリカが 2018 年 11 月 5 日に制裁を正式に発動する前に、トルコのエルドアン大統領はトルコが制裁を遵守しないと発言した。オマーン政府は公の表明がないが、裏でイラン尿素の輸入を絶えなかった。トルコ税関のデータによれば、2017 年イランから 55.9 万トン、オマーンも 60.1 万トン計 116 万トンを輸入して、2019 年にはこの両国のイラン尿素輸入量が 125 万トンに増えた。オマーンは元々農業のない国で、イランから輸入した尿素がほとんど転売に回された。

より複雑のルートだが、イラン尿素が物々交換という貿易手段を使って、ブラジルにも輸出した。ブラジル税関のデータによれば、2018 年まではイラン尿素の輸入がないが、2019 と 2020 年イラン尿素の年間輸入量が 50 万トンを超えた。ほかに転売により複数のアフリカおよび東南アジアの市場にもイラン尿素の影が見えた。

また、中国も 2018 年に 80 万トン、2019 年上期に約 18 万トンイラン尿素を輸入したが、ほとんどインドに転売し、中国国内に入ったのは 1500 トンしかなかった。ただし、2018 年 12 月中国最大の通信メーカーファーウェイの最高財務責任者（CFO）がイランへの闇送金の容疑によりカナダで逮捕されたことで、中国商社がイラン尿素の転売から手を引いた。

経済制裁措置により、イランが他の産地より大幅な割引価格で尿素を輸出せざるを得ないため、中東と北アフリカの尿素輸出に悪影響を与えた。例えば、エジプトからトルコに輸出した尿素は 2017 年に 129 万トンであったが、2019 年に 73 万トンに減少した。

三、イランの尿素生産能力と実生産量

図 3 は 2011～2018 年イランの尿素生産能力と実生産量を示す。2009～2014 年イランの尿素生産能力が約 450 万トンで推移しているが、2015～2016 年に約 200 万トンの新規尿素工場が稼働され、一気に 650 万トンに増加された。2018 年も新生産ラインが完成し、生産能力が約 300 万トン増加した。2018 年末現在、イランの尿素生産能力が約 976.6 万トンである。その後、イラン政府による尿素生産能力と生産量の公式発表が途絶えて、実態が霧の中に隠れている。

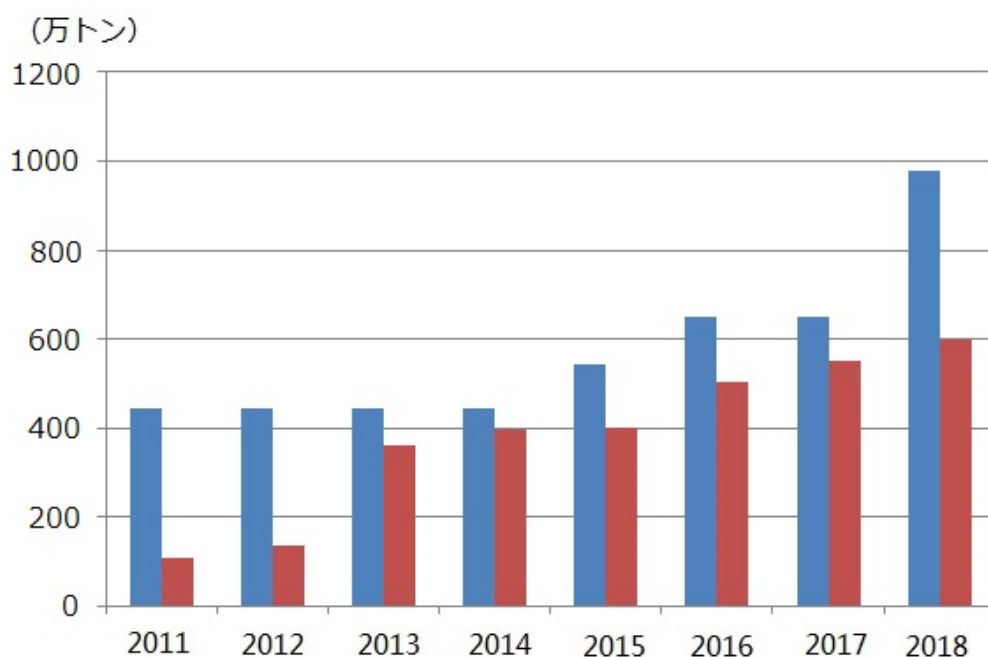


図 3. 2011～2018 年イランの尿素生産能力と実生産量
(データ出所：FAO 統計と著者が集めた資料)

2021 年 6 月に発表された Golobal Date 社の最新レポートによれば、2020 年に比べ 10 年後の 2030 年にイランが新たに 1188 万トンの尿素生産能力の増加が予測される。また、

Argus 社のレポートによれば、新設尿素プロジェクトは Lordegan Urea Fertilizer 社が 107.5 万トン（2019 年完成予定だが、経済制裁により完成が遅れる）、ZanjanIndustries Petrochemical 社、Hengam Petrochemical 社と Masjed Soleyman Petrochemical がそれぞれ 107.5 万トンの尿素プロジェクトを実施している。ほかに Kermanshah 社が 660 万トンの新設計画があるという。計画通りに行けば、2030 年にイランの尿素生産能力が 2150 万トンに達する。

一方、尿素の実生産量について、2002～2012 年までの 11 年間大体 100～150 万トンで推移して、一番高い年は 2008 年の 217 万トンで、2011 年が 108.7 万トンしかなかった。その理由は、当時の国際社会がイランの核開発に対する政治と経済の制裁が厳しく、尿素を含む石油化工製品の輸出が厳しく制限された為である。また、当時の政権は自立経済を主張し、外国との貿易に頼ることなく、自分たちで農業や産業を育てる体制を掲げることもあり、この間にイラン尿素生産設備の稼働率が 50%未満で推移している。

2013 年イランの総選挙により、今まで核開発を強く推進しているイスラム強硬派政権が温和派政権に変えた。新政権は外国との緊張関係を緩和し、国際貿易で国民生活レベルを上げようという政策に変換するうえ、国際社会がイランに対する経済制裁も緩んで、尿素の輸出が大幅に増えた。強い輸出需要が動力となり、2013 年尿素生産量が初めて 350 万トンを突破し、362 万トンに達した。2015 年 7 月米英仏独中露 6 か国とイランの間に核開発に関する合意が結んで、イランの経済制裁が解除されたことにより、翌 2016 年に尿素実生産量が 500 万トンを突破し、2017 年約 550 万トン、2018 年約 600 万トン尿素が生産された。

但し、2018 年に記録的な 600 万トンの生産量は尿素生産能力に比べても、61%しかない。2018 年 8 月からアメリカがイラン核合意から離脱して、再びイランに対して政治と経済の制裁を再開させたため、尿素を含むすべての石油化学品の輸出が制限され、2019 年と 2020 年の尿素実生産量が大幅に抑えられたと推測される。

四、経済制裁の解除によるイラン尿素輸出再開の影響

イランが豊富な石油と天然ガス資源を有し、国体制もイスラム共和制であるため、政府の意思が通り易く、政策実行には障害が少ない。もし、イランに対する経済制裁が解除されれば、尿素の輸出再開が国際相場に及ぼす影響を検討する。

1. 尿素の国際相場を押し下げる

イラン尿素産業の特徴は、原料天然ガスが自国産で、尿素生産設備もほとんど 2000 年以降新設された最新の技術を有するもので、生産コストが非常に安い。資料によれば、イラン尿素の生産コストが大体 100～120 ドル/トンで、中東諸国と並び世界一低いと言われる。また、2016 年～2018 年の間、イラン尿素が常に中国や埃及を代表とする中東・北アフリカ尿素より 10～20 ドル/トン安い価格で販売していた。従って、ただの 10 年間で、イラン尿素輸出量が 2008 年の 3,900 トンから 2018 年の 420 万トンに急増し、世界尿素貿易の黒馬となった。

経済制裁が解除されれば、市場を取り戻す目的と外貨稼ぎのため、間違いなくイラン尿素が安い値段で売り出す。短期的に 300~400 万トン以上の廉価尿素が国際相場を押し下げる圧力となる。長期的にイラン尿素産業の稼働率が上り、新設工場の稼働も加われば、年間 800~1000 万トンの輸出量、世界最大の尿素輸出国になることは夢ではない。

2. 南アジアと南米輸入尿素市場の支配者となる可能性

南アジア（インド、パキスタン、バングラデシュ）と南米（ブラジル、アルゼンチンなど）は世界 2 大尿素輸入地域である。イランに対する経済制裁が発動してから南アジアの尿素輸入先は主に中国、南米の尿素輸入先は旧ソ連と北アフリカに依存している。

経済制裁が解除されれば、2018 年までの最大の輸出先としてのインドの市場を間違いなく取り戻すことになる。経済制裁の間に、その需要を中国と中東に大きく依存しているインドにとって、関係の悪い中国から離れる一方、廉価のイラン尿素も政府と農家大きな利益をもたらすと考えられる。パキスタンとバングラデシュも同じイスラム国であるうえ、外貨不足で、イラン尿素が歓迎されるだろう。

また、2018 年以降に開拓されたブラジル、トルコ、アフリカ市場をさらに攻め込むことになる。特にインドの尿素自給率が上り、輸入量が減る場合、これらの国は重要な輸出先として確保する必要がある。遠くない将来、廉価のイラン尿素が他国の製品を抑えて南アジアと南米尿素市場の支配者になることも予想されている。

3. 中国尿素産業が大きな打撃を受ける

中国尿素は 8 割以上が石炭を原料とするもので、原料コストが高く、競争力が弱いといわれている。また、海運などの原因でその輸出先はインド、東南アジアと東アジアに限られて、イラン尿素の主な輸出市場とダブっている。イラン尿素の輸出が規制されている現状では、選択の余地がなく中国尿素を輸入する。東南アジアも同じである。

もし、経済制裁が解除され、廉価のイラン尿素が国際市場に出回れば、インドを含む南アジアと東南アジアは当然優先的に購入するだろう。特にインドと中国の関係が良好とは言えず、別の選択肢がある場合はわざわざ中国尿素を輸入する必要性が減る。

中国窒素肥料工業協会の資料によれば、2020 年中国の尿素生産能力 6634 万トン、実生産量 5623 万トンであるが、国内消費量が 5078 万トンだけで、残りの 500 万トン以上を輸出で捌かなければならない。2019 年中国尿素輸出量の 47.8%，2020 年輸出量の 54.6% はインド向けである。パキスタンとバングラデシュ、東南アジアを含むとそのシェアがさらに高くなる。これらの輸出先が失うことで、中国尿素産業は大打撃が避けられない。